



# ほんとう？ それともウソ？



## はだかの王さま



バージニア・リー・バートン 絵 アンデルセン 作 乾 侑美子 訳 岩波書店 E-バ

むかし、あたらしい服がなによりも好きな王さまがいました。ある日きゆうでんに、はたおりだというふたりの男がやってきます。そして、じぶんたちは、このうえなくすばらしいまほうの布をおることができるといいました。その布でつくった服が見えるのは、やくめにふさわしいものだけだということです。そこで、王さまはふたりにしごとをはじめるといいました。

## ルソンバンの大奇術



牡丹 靖佳 著 福音館書店 913-ボ

ルソンバンは、ひよろりと背が高くハリガネのようなヒゲをもったマジシャンです。指先から星を出したり、空中から雲を取り出すことができます。ところが、二十年ほど前、劇場で失敗をしてから、人々はルソンバンのこともマジックのこともわすれさっていきました。よく晴れた日、ルソンバンが岸辺のベンチにこしかけていると、とつぜん黒っぽい影がしげみから飛び出してきます。

## ほらふき男爵の冒険



G. A. ビュルガー 編 齊藤 洋文 偕成社 943-ビ

ミュンヒハウゼン男爵は <ほらふき男爵>とよばれています。ある冬、男爵がポーランドの荒野を馬で旅していると、ひとりの男がたおれているを見つけました。男爵はあわれに思い、自分が着ていたマントを投げてやります。すると、「よきむくいあるべし！」という声が聞こえました。そして、男のすがたが消えたのです。その日の午後になると、大雪で一軒の家も見えず、男爵は野宿をすることにしました。(『ロシアへ、そして、ロシアで』)

# うそつきにかんぱい！



宮川 ひろ 作 童心社 913-ミ

春から二年生になる信也は、大ばあちゃんがだいすきです。このところ、大ばあちゃんは、信也を大ばあちゃんの弟で戦死した信夫とまちがえるようになりました。おかあさんは、信也に信夫になっておやりといいますが、信也は、うそをつくのがいやです。そこで、信也はすぐ近くの「双葉造園」のふたばおじさんに、話を聞いてもらうことにしました。

# きつねとかわうそ



梶山 俊夫 再話・画 福音館書店 E-カ

むかし、きつねとかわうそがいました。あるひ、ふたりはみちで、ばったりとあいます。すると、きつねがかわうそに「ふたりでごっつおのよびあいをしねえか」といいました。かわうそは、それはいいことだといいい、まずはじぶんのいえへきつねをよぶことにします。つぎのひ、きつねはかわうそのいえへ、およばれにやってきました。

# うそつき大ちゃん



阿部 夏丸 著 ポプラ社 913-ア

健太は、大介が家下川の堤防を歩いているところを見つけます。その日から、健太と大介は遊ぶようになります。すると「うそつき大ちゃん」とよばれていた大介がうそつきではないことがわかりました。健太は、大介がうそつきじゃないということをみんなに証明しようといいますが、大介は証明しなくていいといっています。

# デタラメ研究所



小波 秀雄 文 福音館書店 417-コ

デタラメ研究所研究員のルールは、デタラメ現象について調べるため地球へとやってきました。地球人たちの“デタラメ”のとらえ方はかなり独特で、ルールの考えるデタラメとはちがいます。地球人のエヌくんは、サイコロを3回ふって3回とも1が出ると「奇跡だ!」と言いました。ルールはサイコロから出てくると、エヌくんとデタラメについて調べはじめます。